

平成 26 年 4 月 1 日
株式会社日本政策金融公庫

ニュースリリースの訂正とお詫び

平成 26 年 3 月 18 日付で公表しました平成 25 年度下半期消費者動向調査（食の志向）のニュースリリースにおいて、下記の記載内容に誤りがありました。

深くお詫び申し上げますとともに、別添のとおり、ニュースリリースを訂正いたします。

記

【訂正箇所】

P10～13

図 7 「国産食品の輸入食品に対する価格許容度」の品目別グラフ（（1）米、（2）野菜、（3）きのこ、（4）果物、（5）牛肉、（6）豚肉、（7）鶏肉、（8）魚介類）におけるH25/7 時点の数字

<お問い合わせ先>

日本政策金融公庫 農林水産事業本部

情報企画部(担当:大竹、清水) TEL: 03-3270-5585

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-4 大手町フィナンシャルシティ ノースタワー

食の健康志向が過去最高 「割高でも国産選ぶ」が3半期連続で増加

－ 日本公庫・平成25年度下半期消費者動向調査 －

日本政策金融公庫（略称：日本公庫）農林水産事業が1月に実施した平成 25 年度下半期消費者動向調査で、消費者の健康志向がミドル層を中心に高まり、過去最高となりました。また、値段が「割高でも国産品を選ぶ」消費者が3半期連続で増えたことも特徴です。詳細は以下のとおりです。

<調査結果のポイント>

○ 「健康」「簡便化」志向が上昇、食費節約の「経済性」志向は低下(図1)

消費者の「健康志向」は46.5%と25年7月の前回調査(44.3%)から2.2ポイント上昇し、20年1月の調査開始以来最高の回答割合となった。このほか、食の「簡便化志向」も26.5%で、前回調査(25.4%)から1.1ポイント上昇した。

一方で、食費を節約する「経済性志向」は、前回調査(33.4%)から1.2ポイント低下し32.2%となり、3半期連続での低下となった。また、「手作り志向」も前回調査(19.9%)から1.0ポイント低下し18.9%となっている。

○ 30～40代のミドル層で健康志向の高まりが顕著に(図2・図3)

年代別にみると、「健康志向」「手作り志向」「国産志向」は年代が上がるにつれてその割合が高くなっている。対照的なのが「経済性志向」「簡便化志向」で、若い層ほど志向する割合が高い結果となった。

年代別の推移を見ると、今回過去最高となった「健康志向」では、30代と40代でそれぞれ5.6ポイント、6.0ポイント上昇し、特にミドル層での高まりが顕著となった。

また、「手作り志向」は、20代と30代がいずれも3.6ポイント低下し、若い層での低下が目立つ。

○ 国産品かどうか「気にかけない」が増加(図4・図5)

食料品を購入するときに国産品かどうか「気にかける」の回答は77.5%で前回調査と変わらず、「気にかけない」の回答は19.3%で前回調査(18.1%)から1.2ポイント増加した。また、外食するときに「気にかける」の回答は35.3%、「気にかけない」

の回答は 55.5%と、いずれも前回調査（気にかける 34.1%、気にかけない 54.8%）から、それぞれ 1.2 ポイント、0.7 ポイント上昇した。

なお、国産原料の食品、輸入食品に対するイメージでは、国産原料の食品に対する「安全面」のイメージが 63.8%となり、前回調査（68.5%）から 4.7 ポイント低下したが、昨年 12 月の国内冷凍食品工場での農薬混入事件が影響したものと思われる。

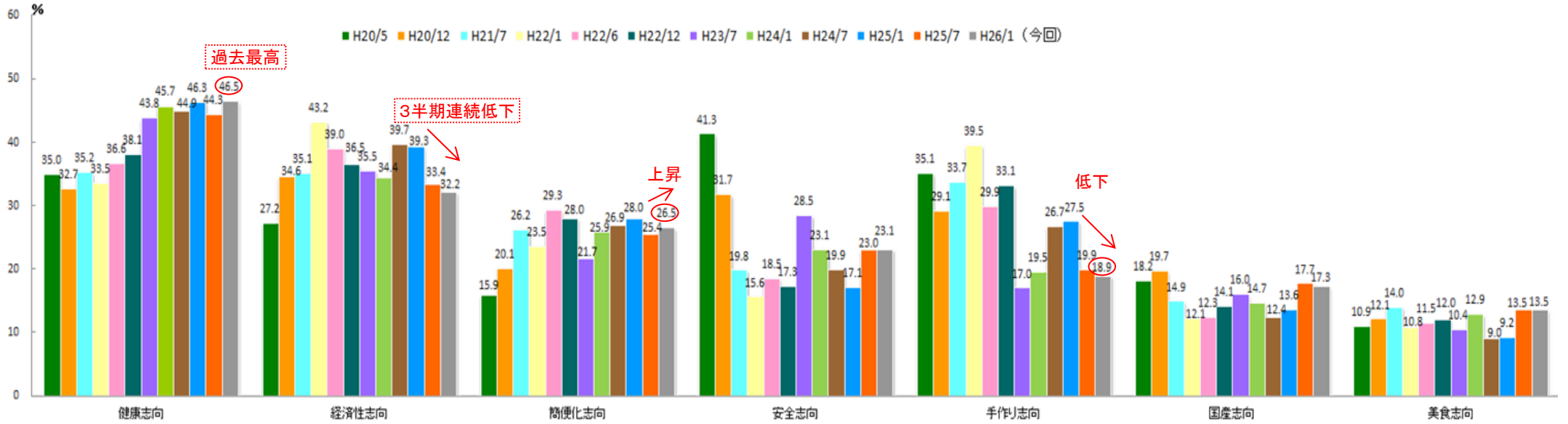
○ 「割高でも国産品」が3半期連続で上昇(図6・図7・図8)

輸入食品との関連で消費者動向がポイントとなる国産食品への価格許容度を聞いたところ、「割高でも国産品を選ぶ」という回答が 61.7%と、3 半期連続で上昇し、調査開始の 20 年 5 月の 64.7%に次ぐ過去 2 番目に高い回答となった。

また、現在の価格と比べて妥当と思う価格水準の質問では、夏場の猛暑など天候不順が影響し高値となった「野菜」と「卵」で、「値下げが妥当」の回答が前回調査よりそれぞれ 7.3 ポイント、7.5 ポイント上昇した。

調査時期	平成 26 年 1 月 1 日～1 月 14 日
調査方法	インターネットによるアンケート調査
調査対象	全国の 20 歳代～70 歳代の男女 2,000 人（男女各 1,000 人）

図1 現在の食の志向（上位）の推移/2つ回答



(参考：今後の食の志向（上位）の推移/2つ回答)

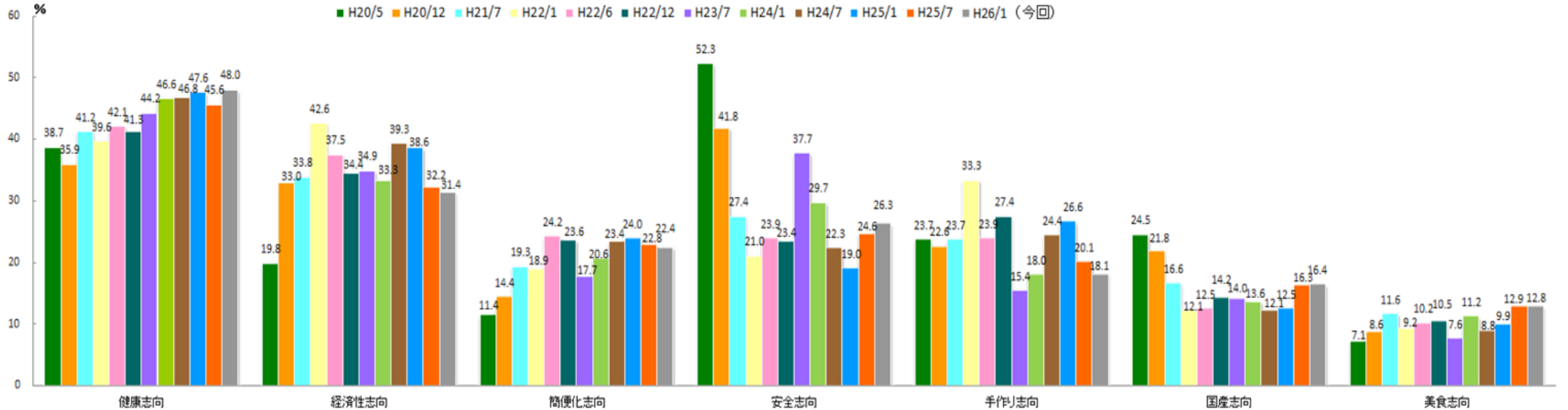


図2 年代別 現在の食の志向 (H26年1月調査)

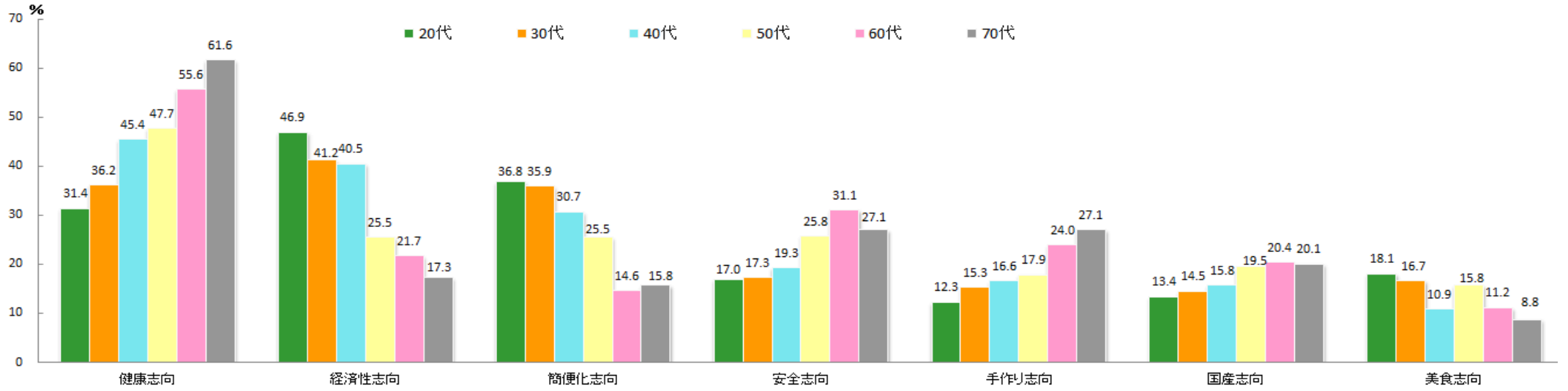
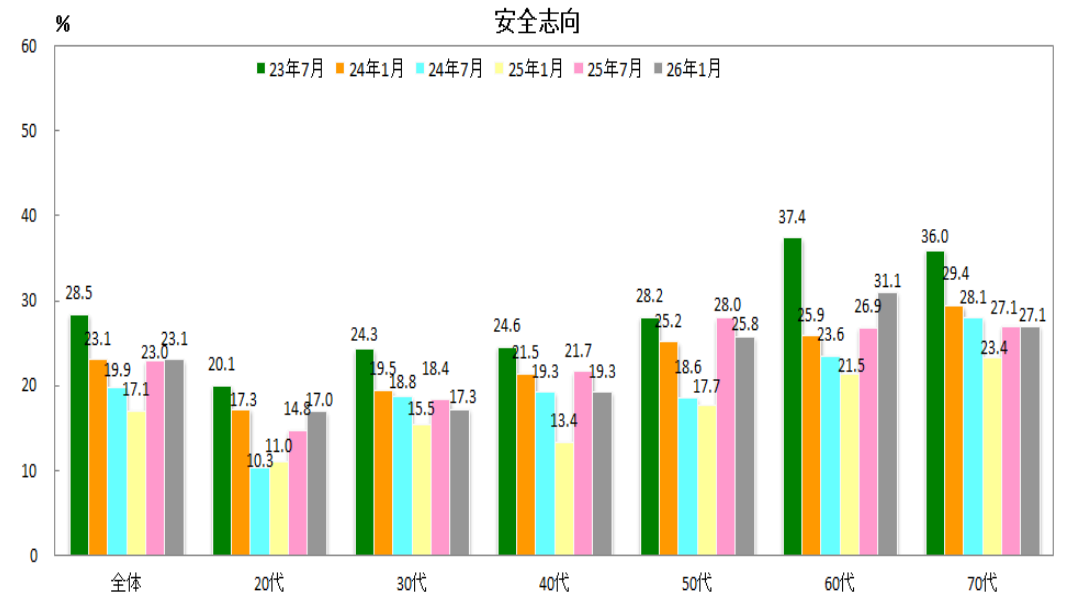
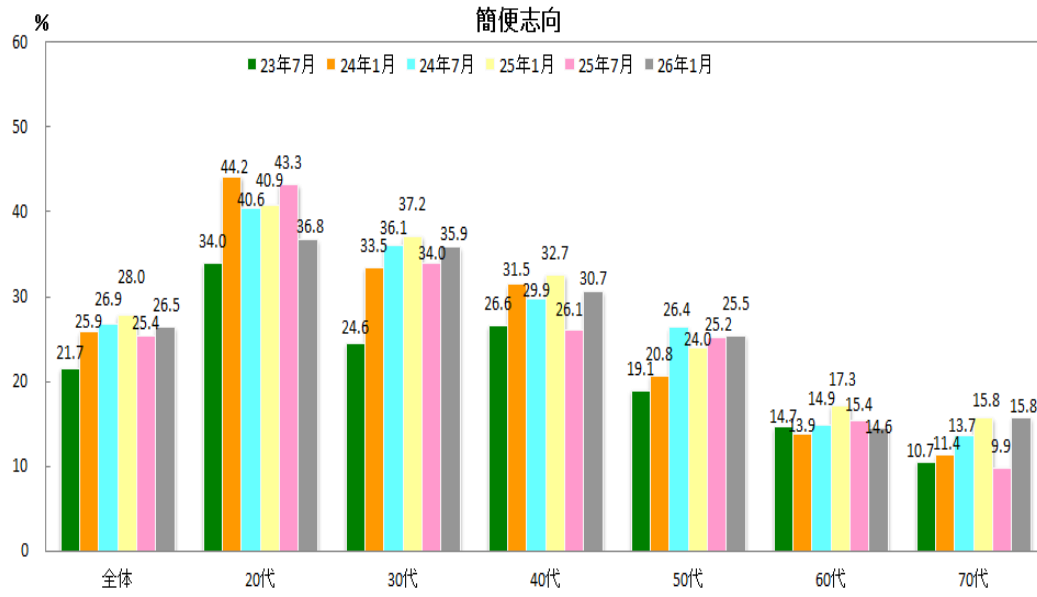
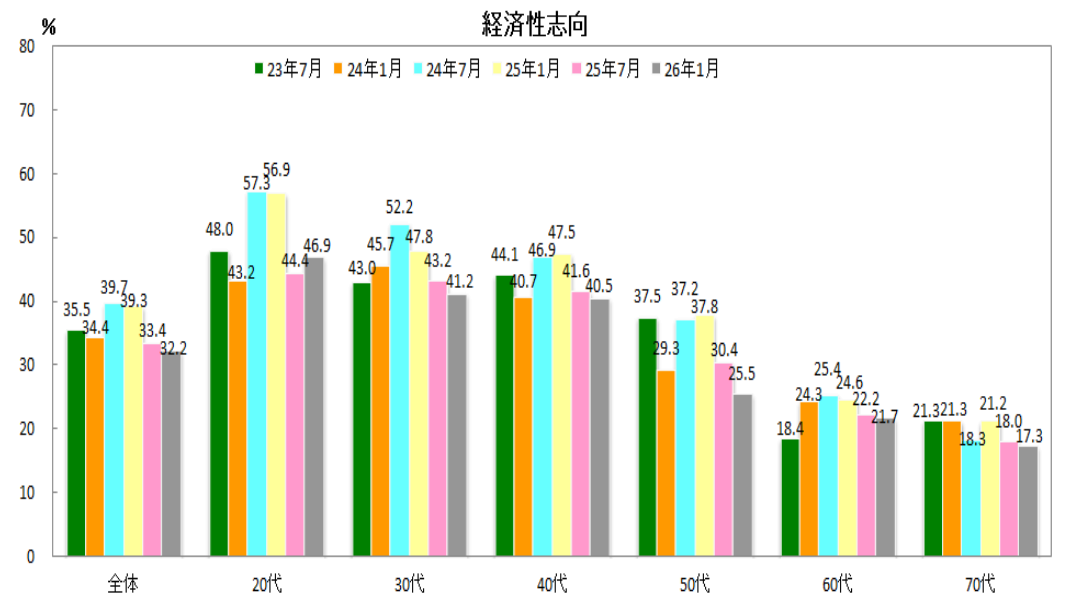
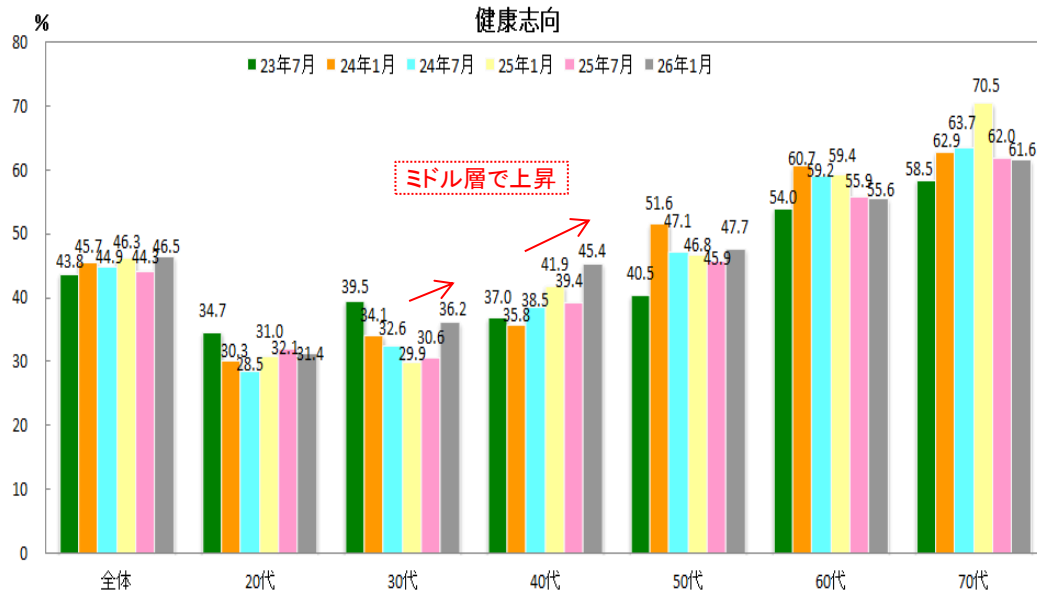


図3 年代別 現在の食の志向の推移



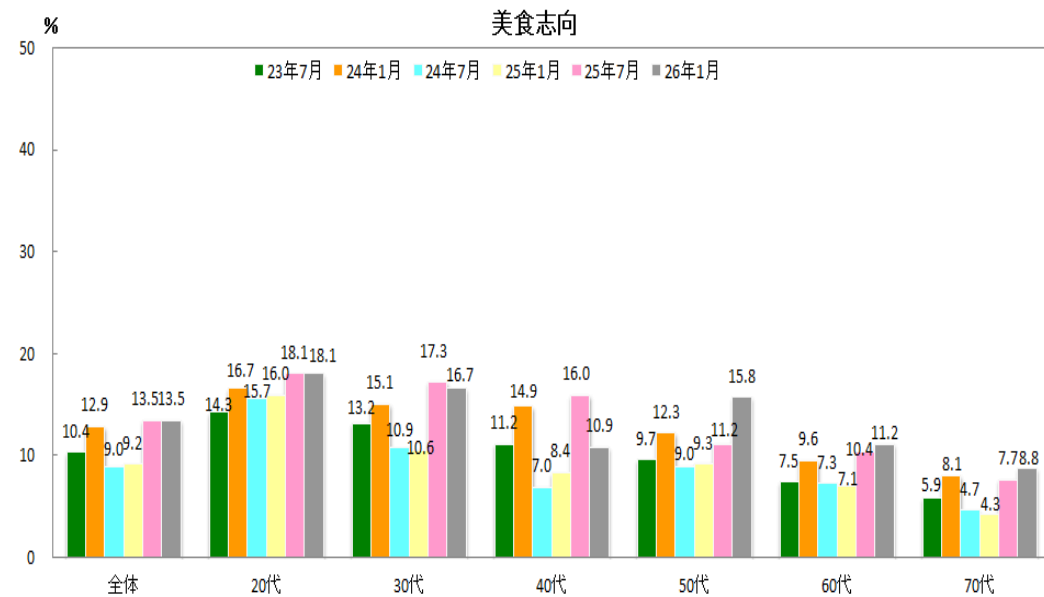
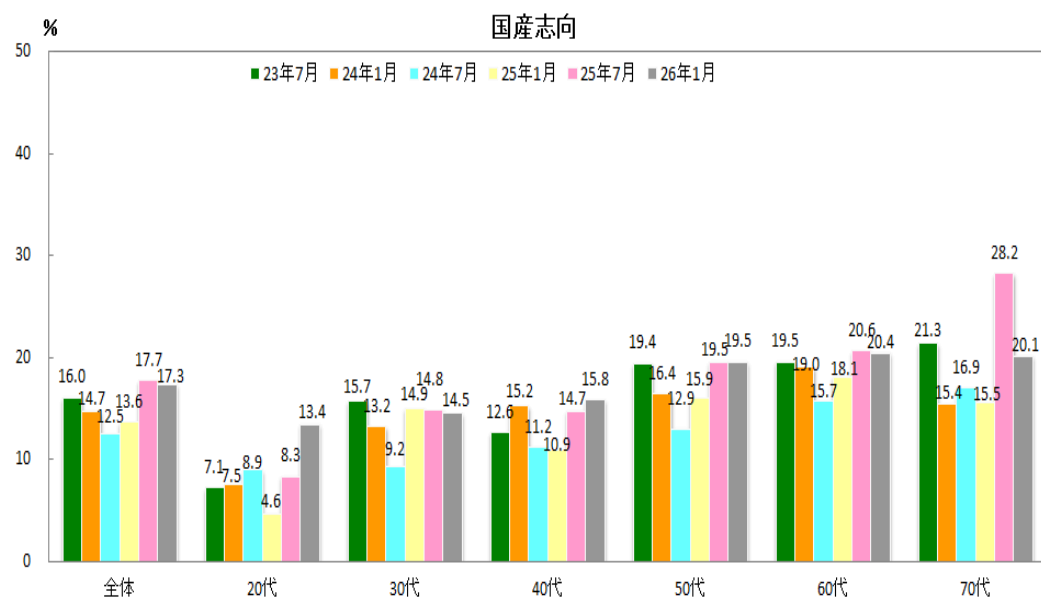
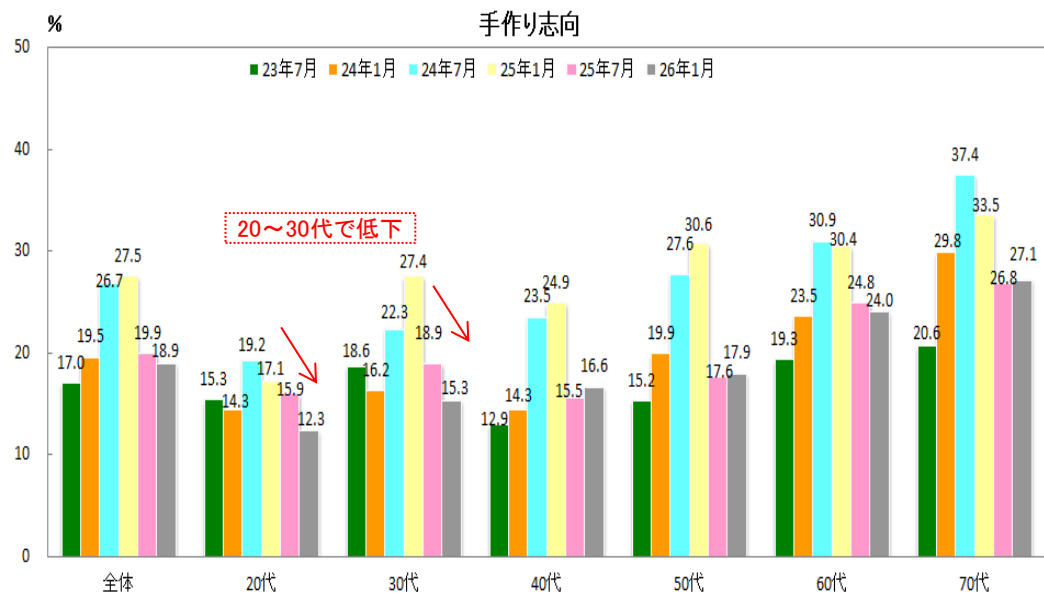
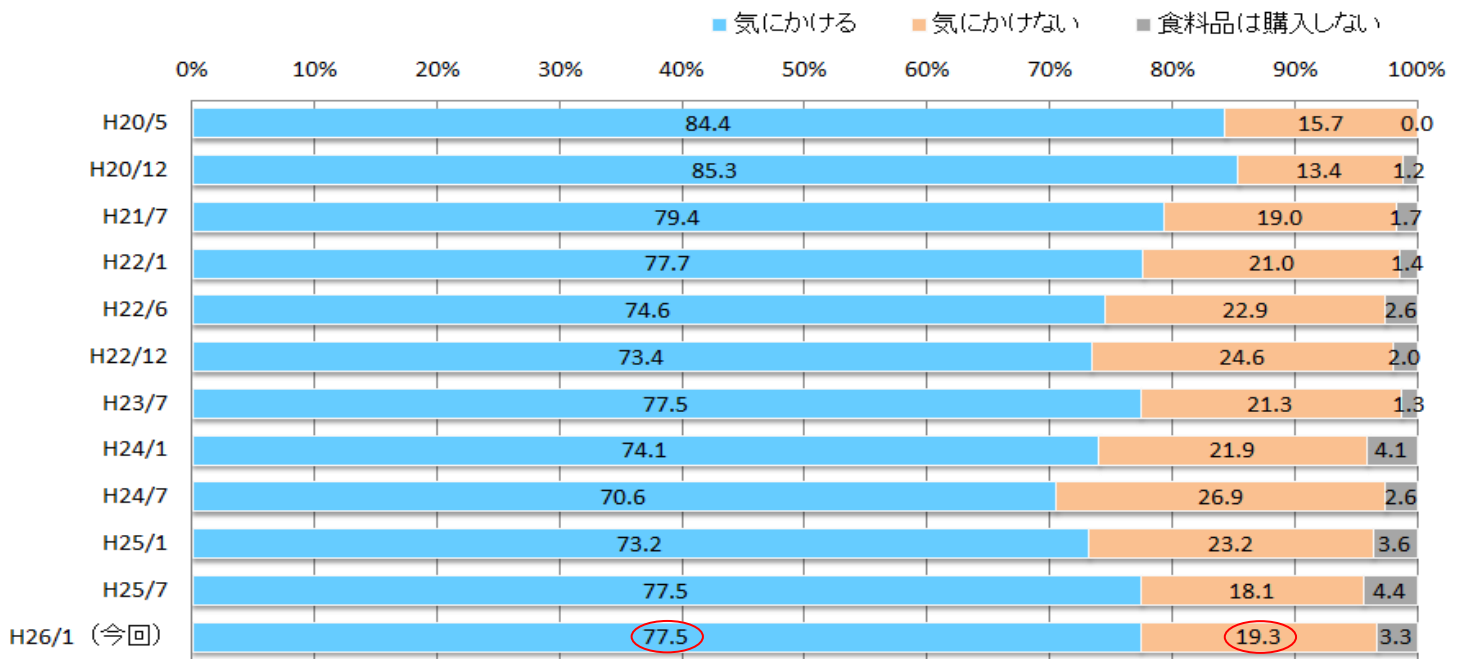


図4 食料品を購入するとき/外食するとき国産品かどうかを気にかけるか

(1) 食料品を購入するとき



(2) 外食するとき

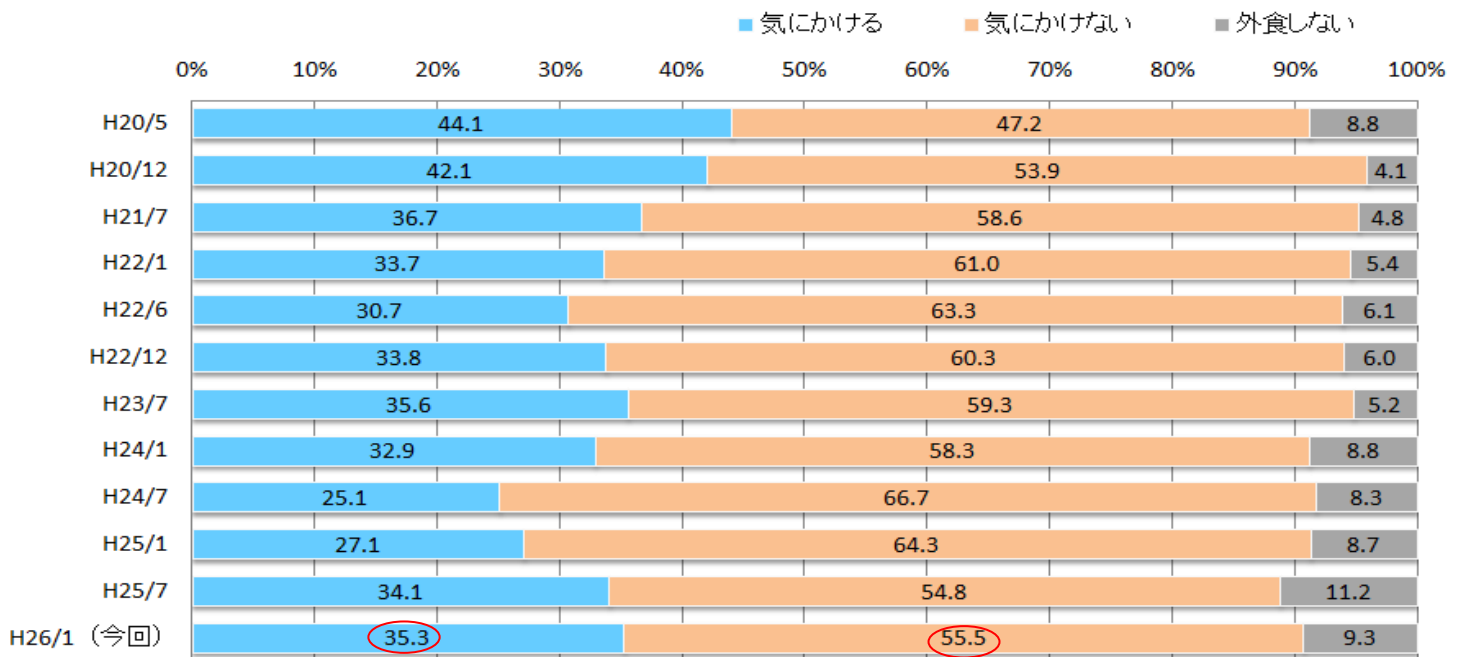
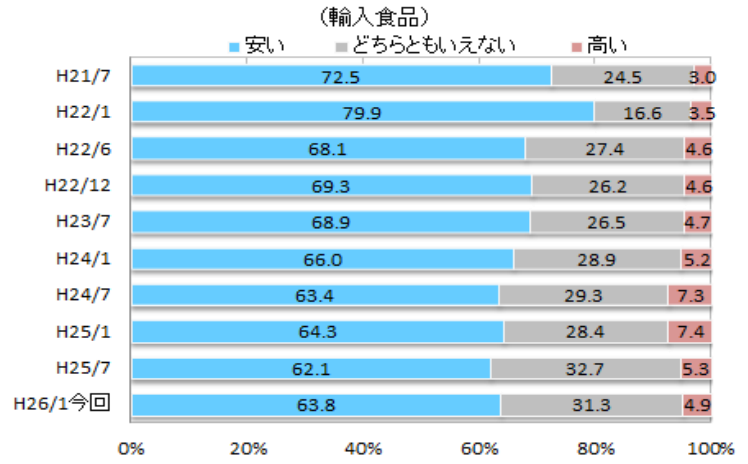
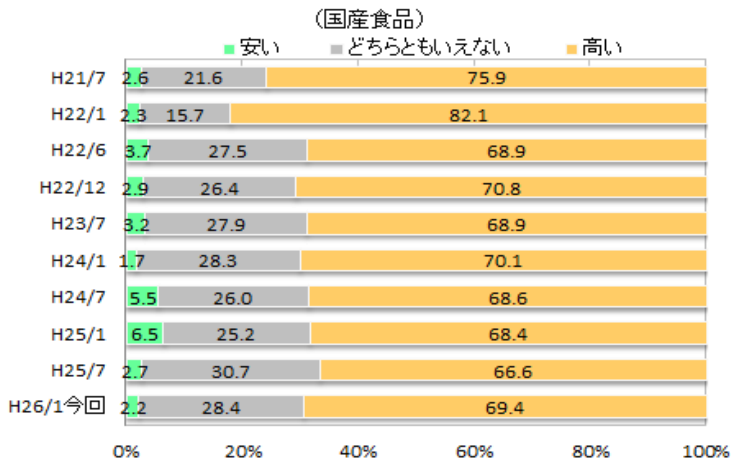
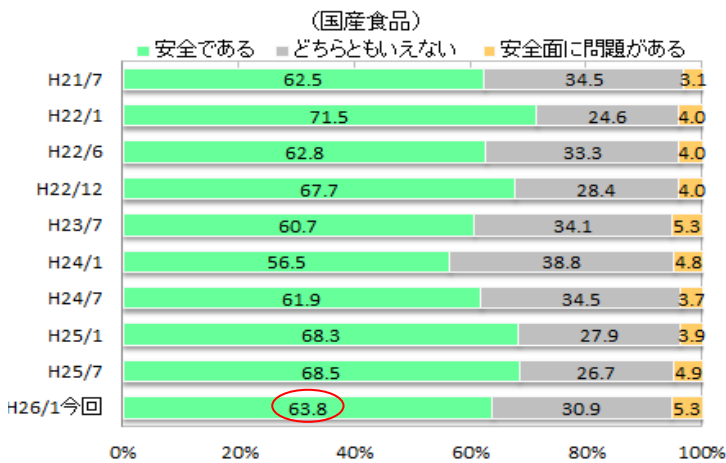


図5 国産原料の食品/輸入食品に対するイメージ

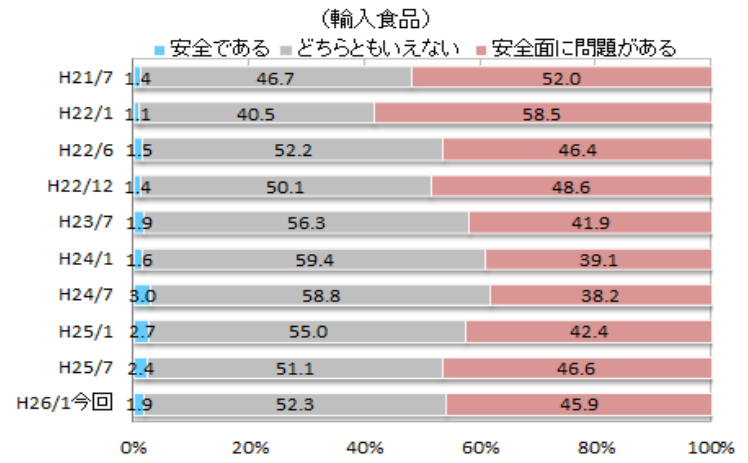
(1) 価格



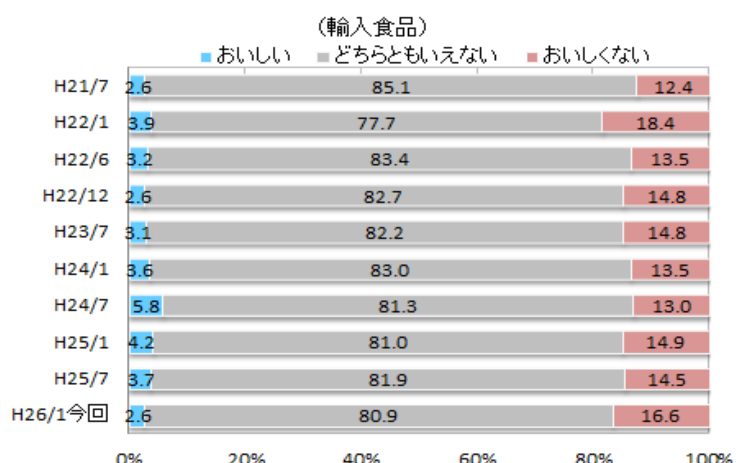
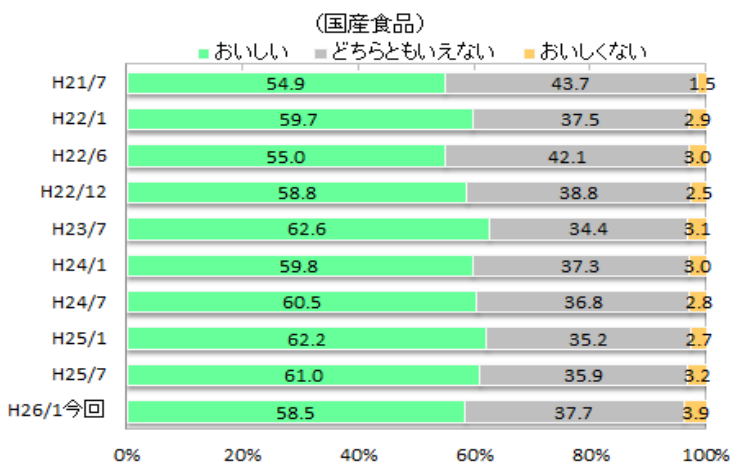
(2) 安全面



前回調査から4.7ポイント低下



(3) おいしさ



(4) 見たい

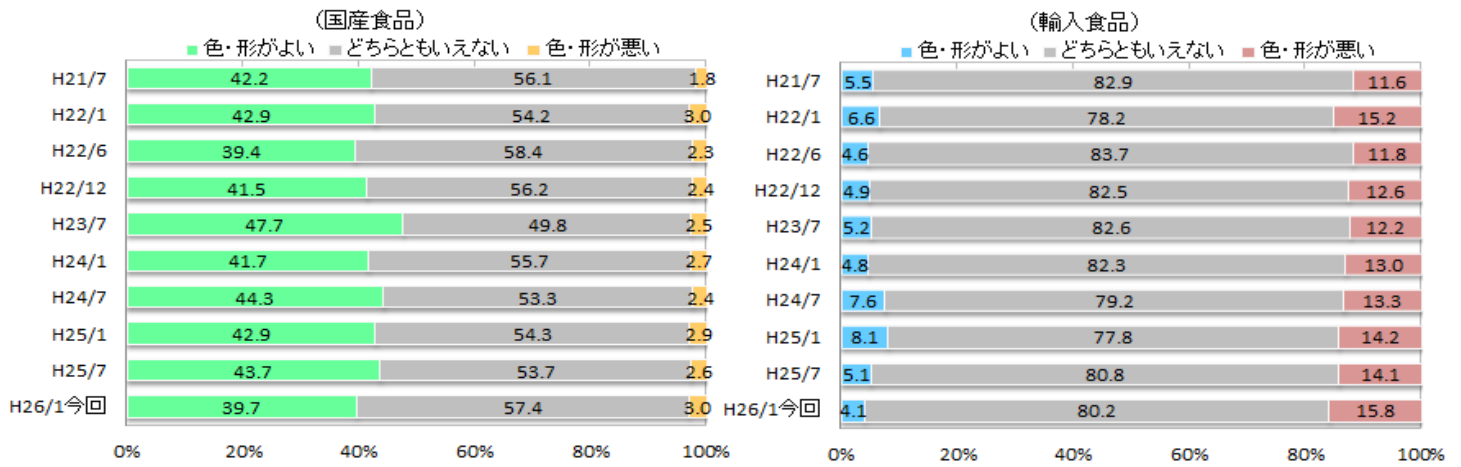
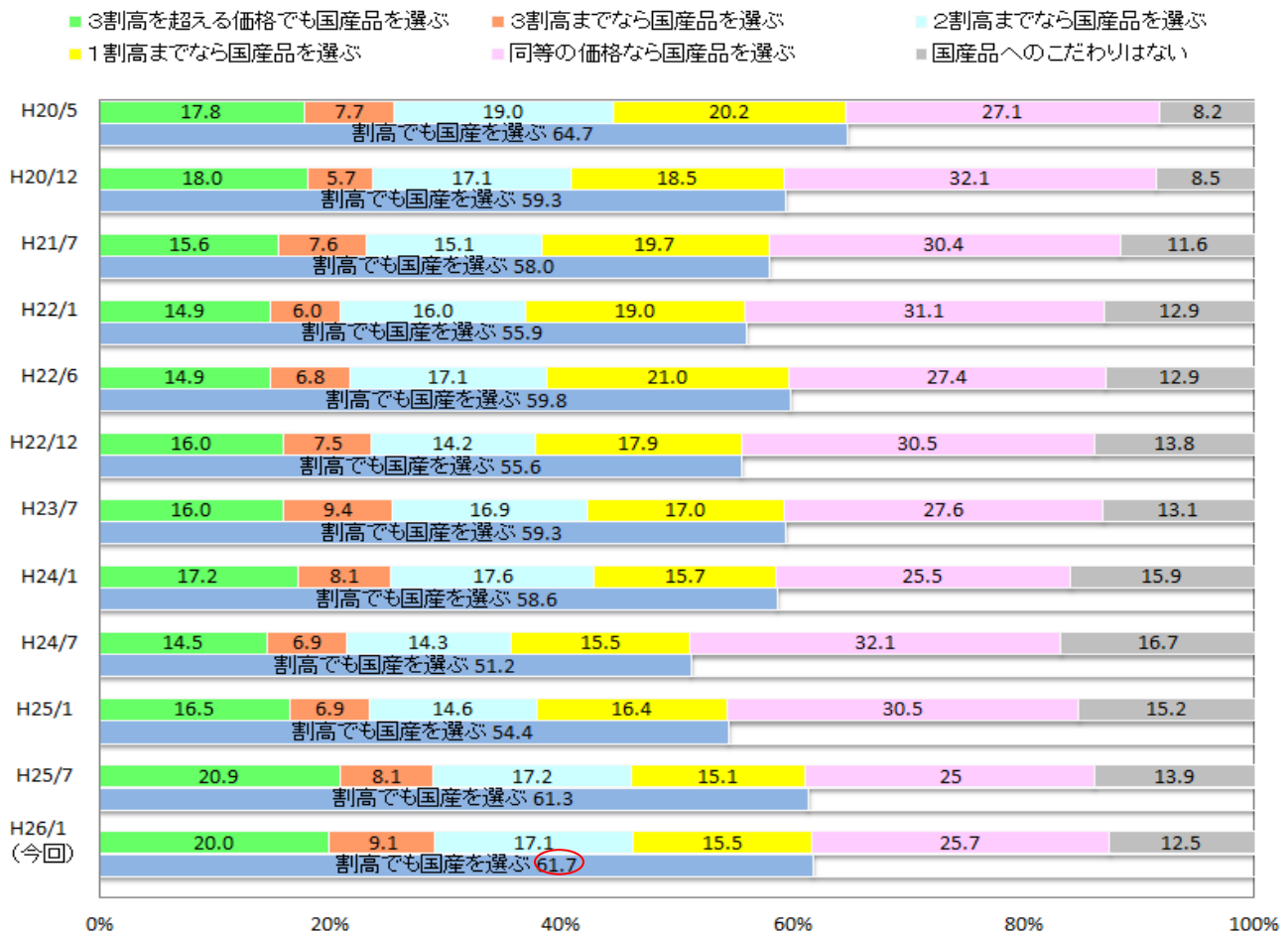
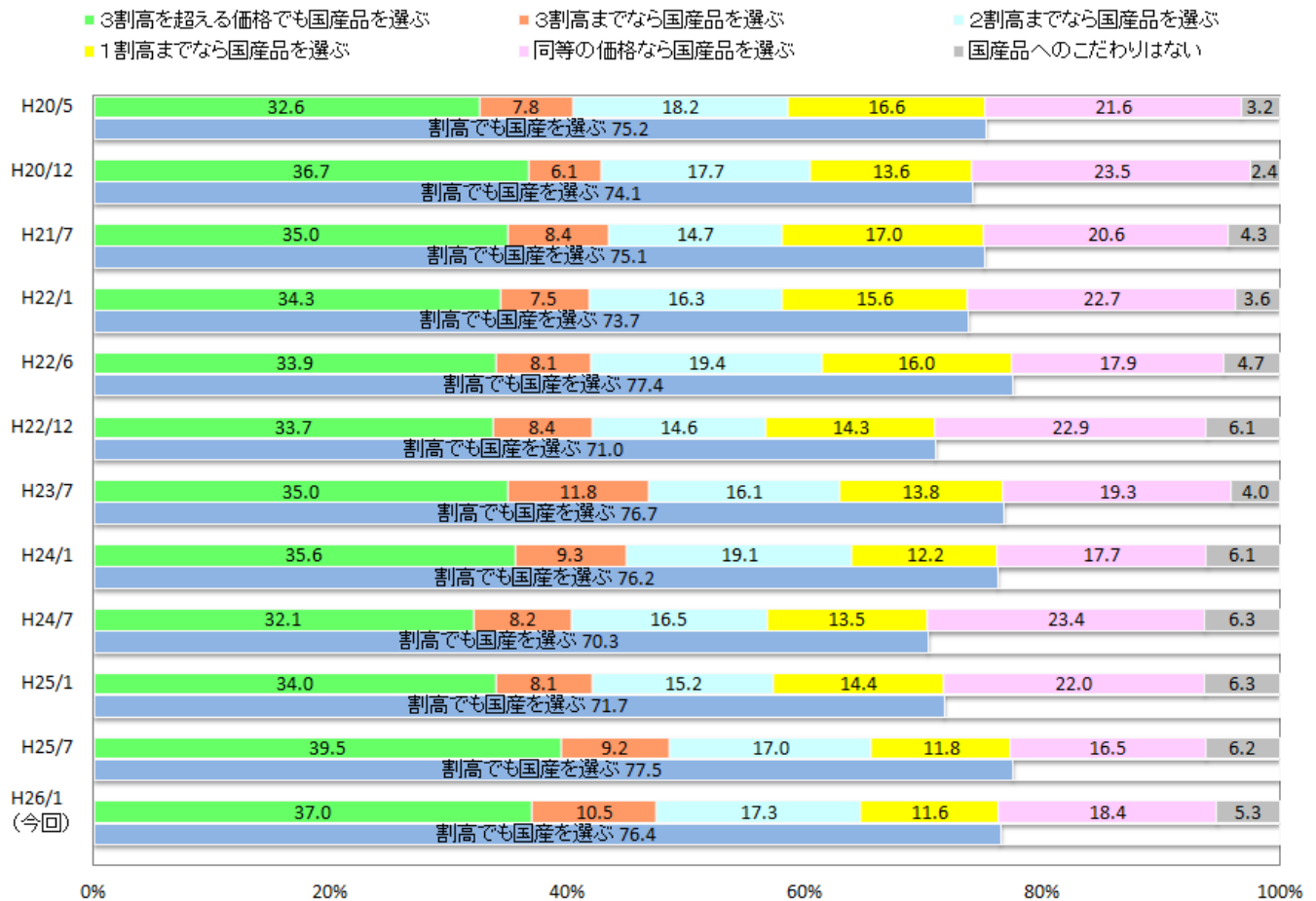


図6 国産食品の輸入食品に対する価格許容度

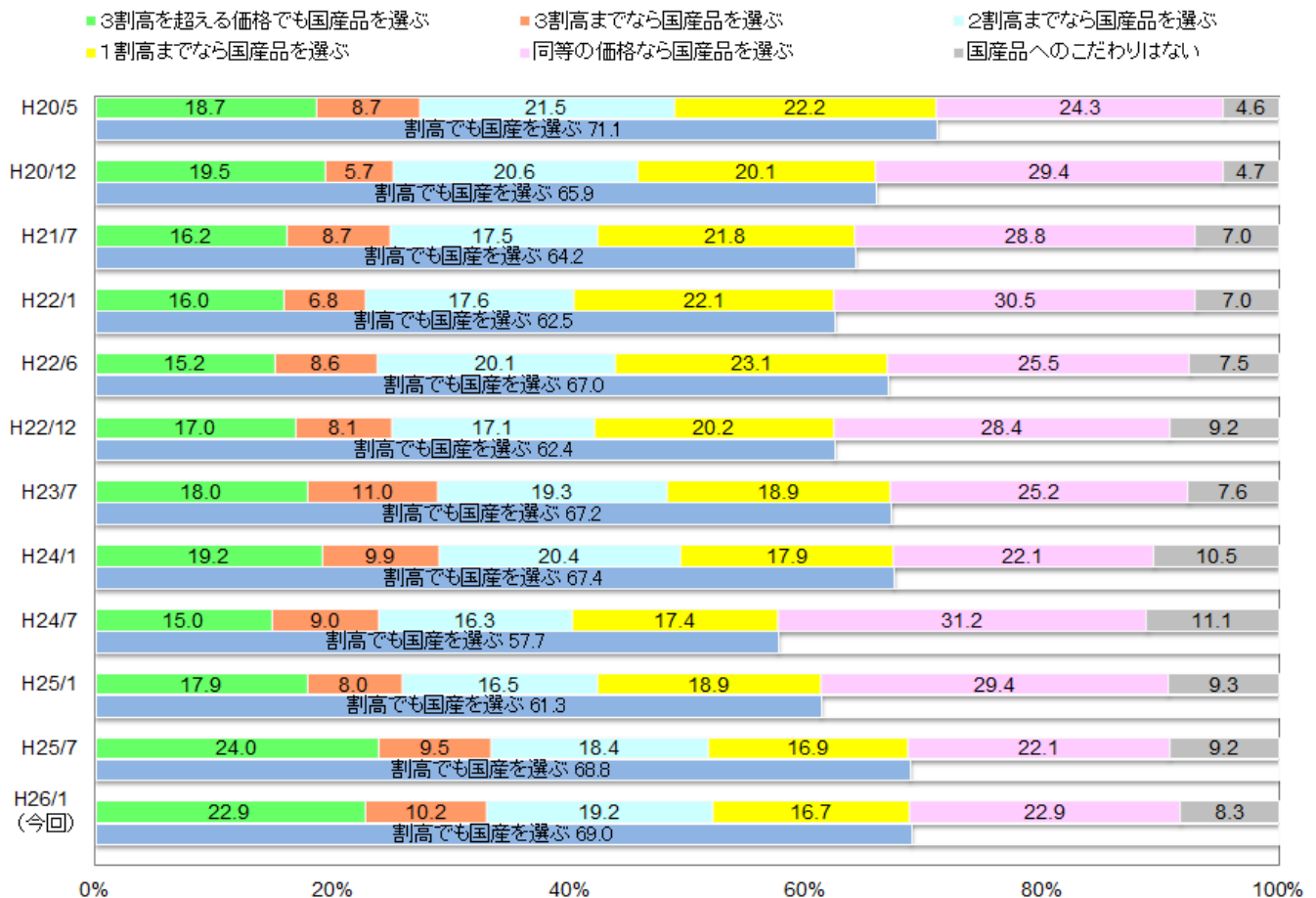


3半期連続で上昇、20年5月調査に次ぐ過去2番目

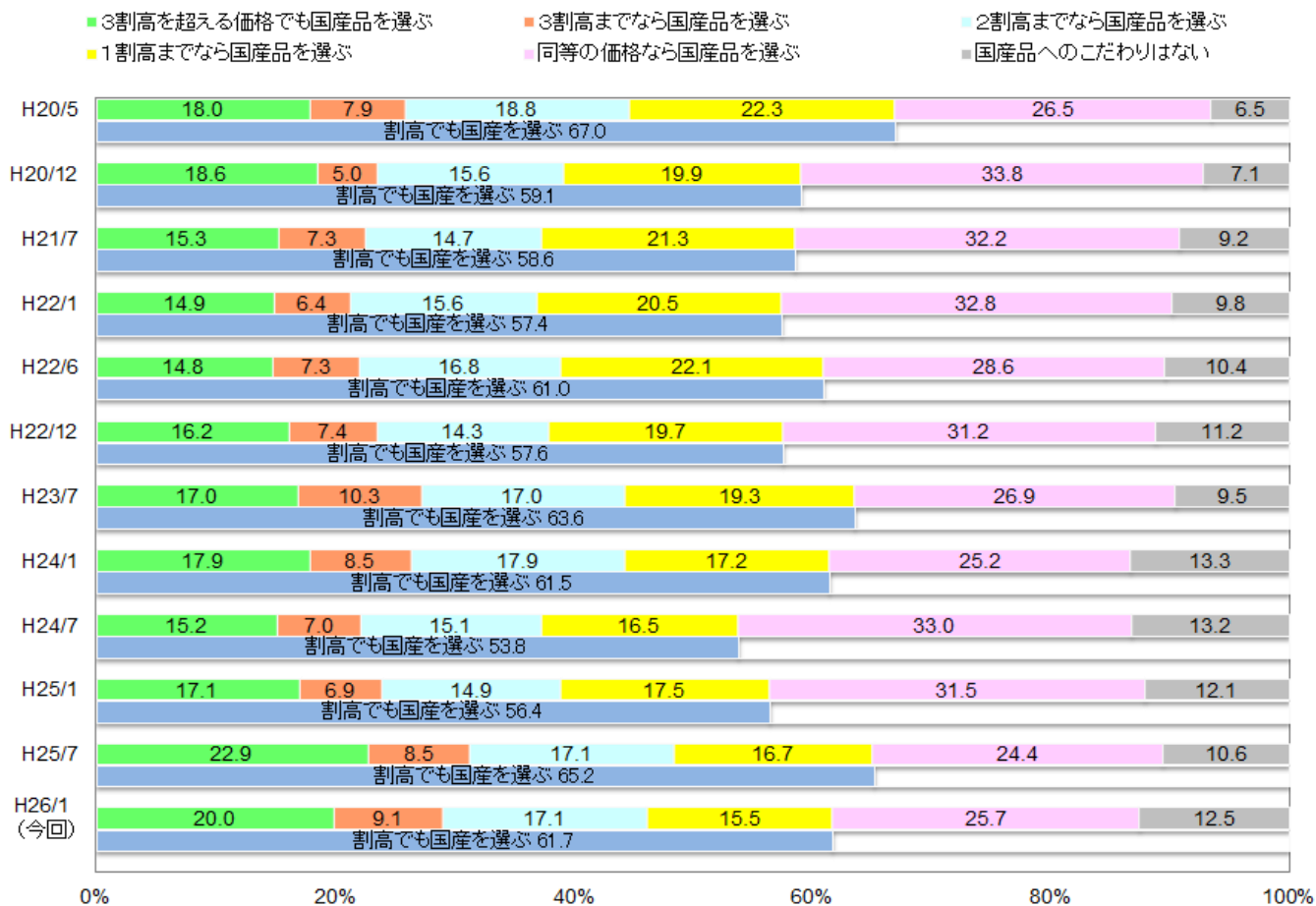
図7 国産食品の輸入食品に対する価格許容度
(1) 米



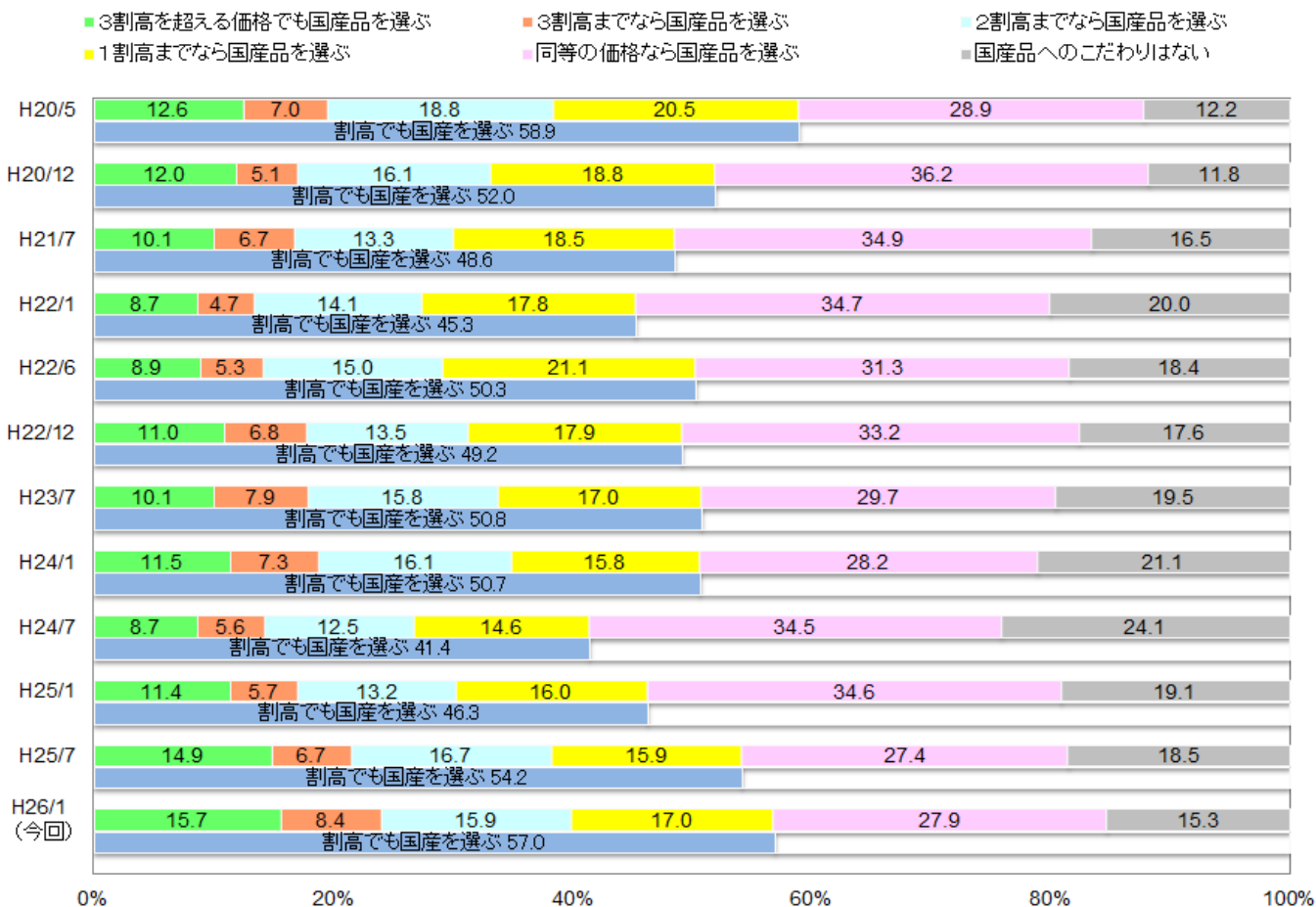
(2) 野菜



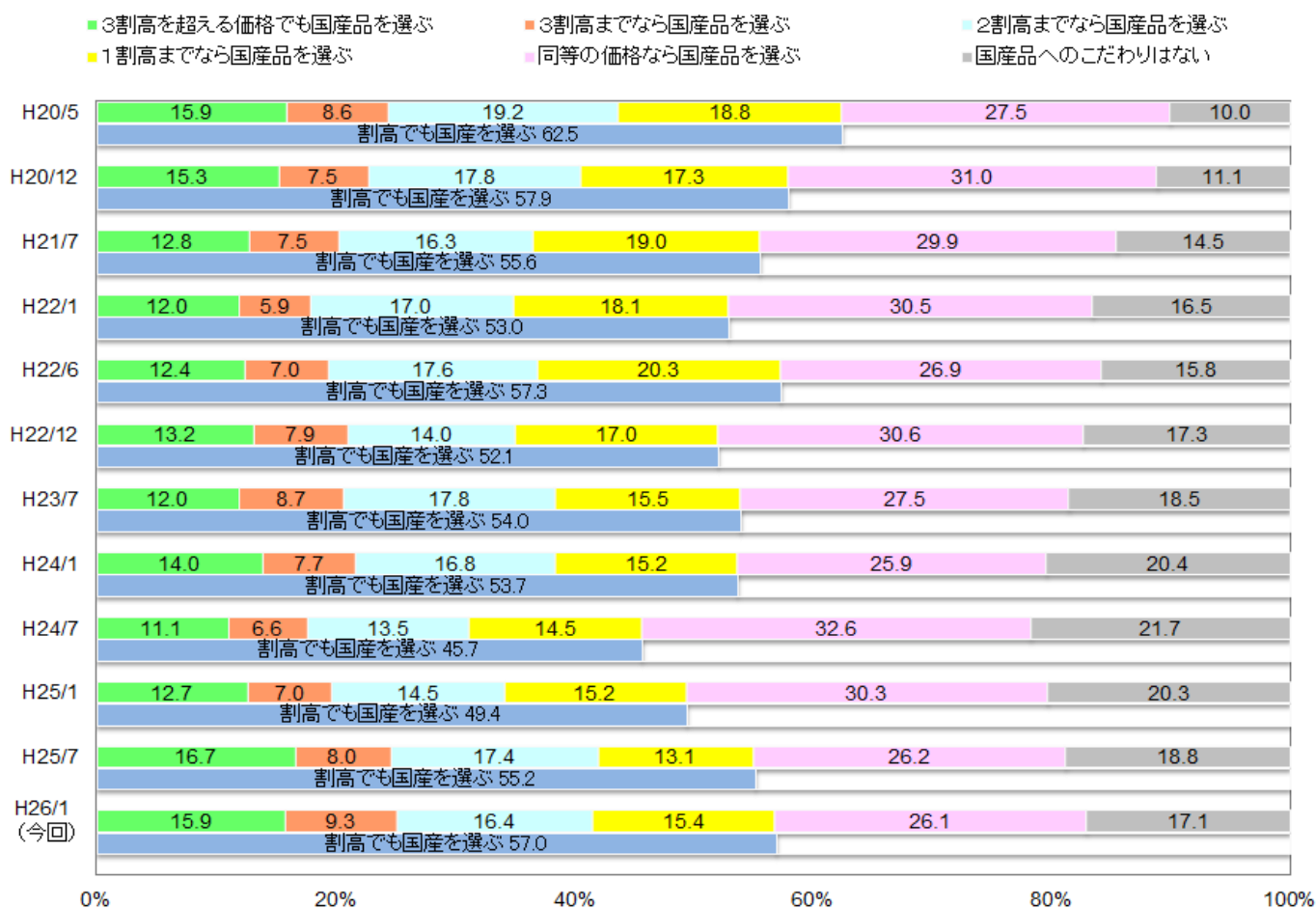
(3) きのこと



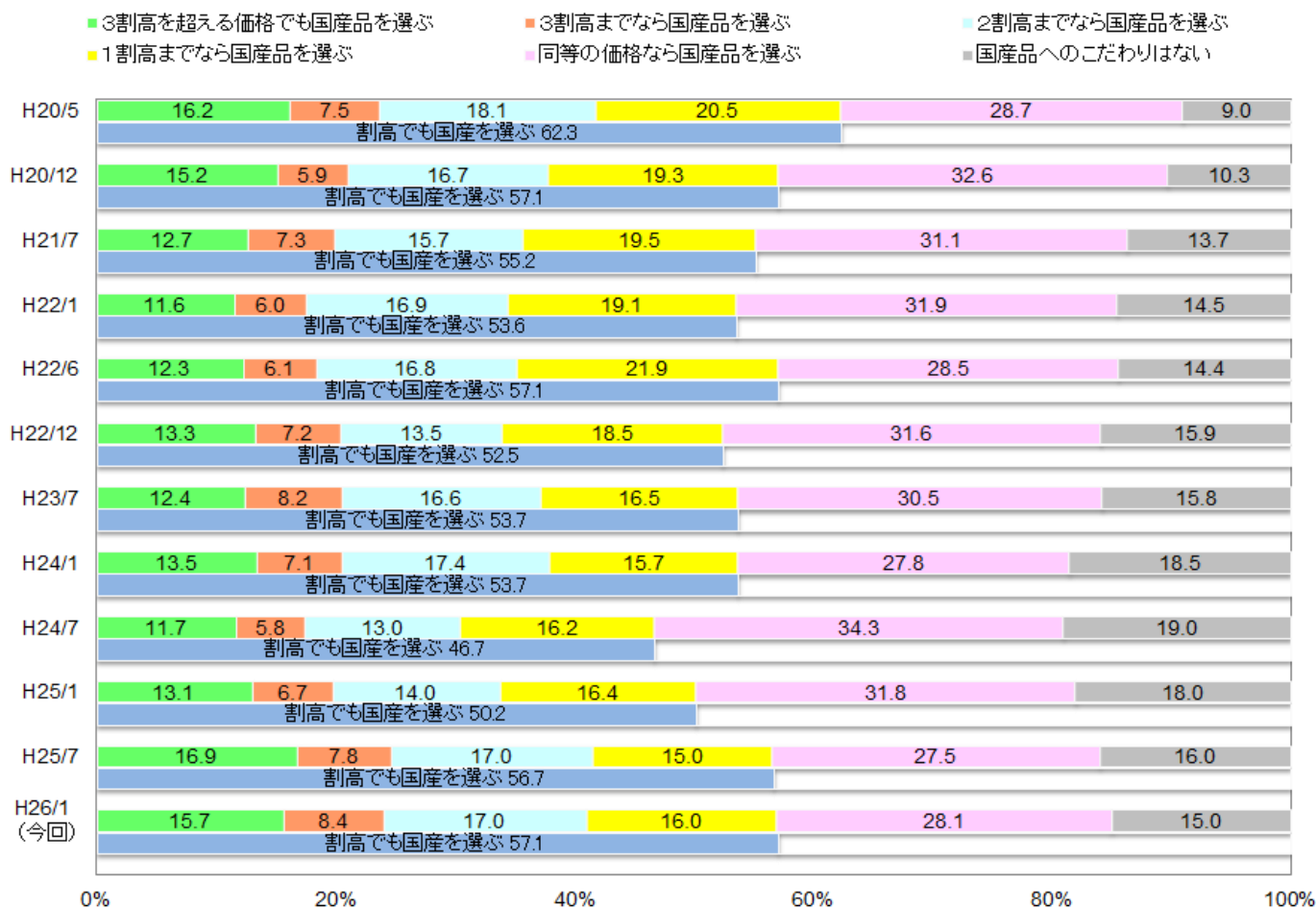
(4) 果物



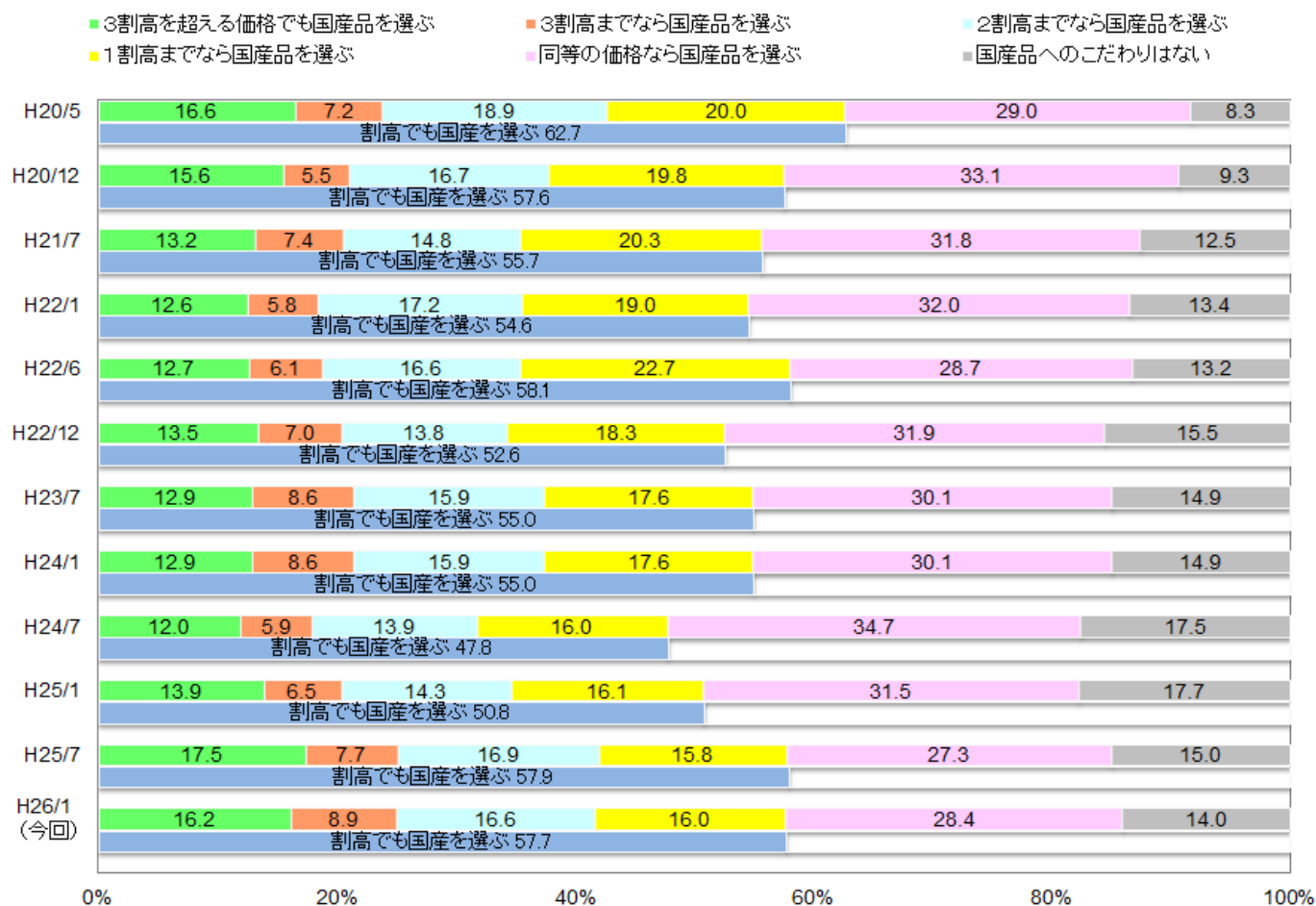
(5) 牛肉



(6) 豚肉



(7) 鶏肉



(8) 魚介類

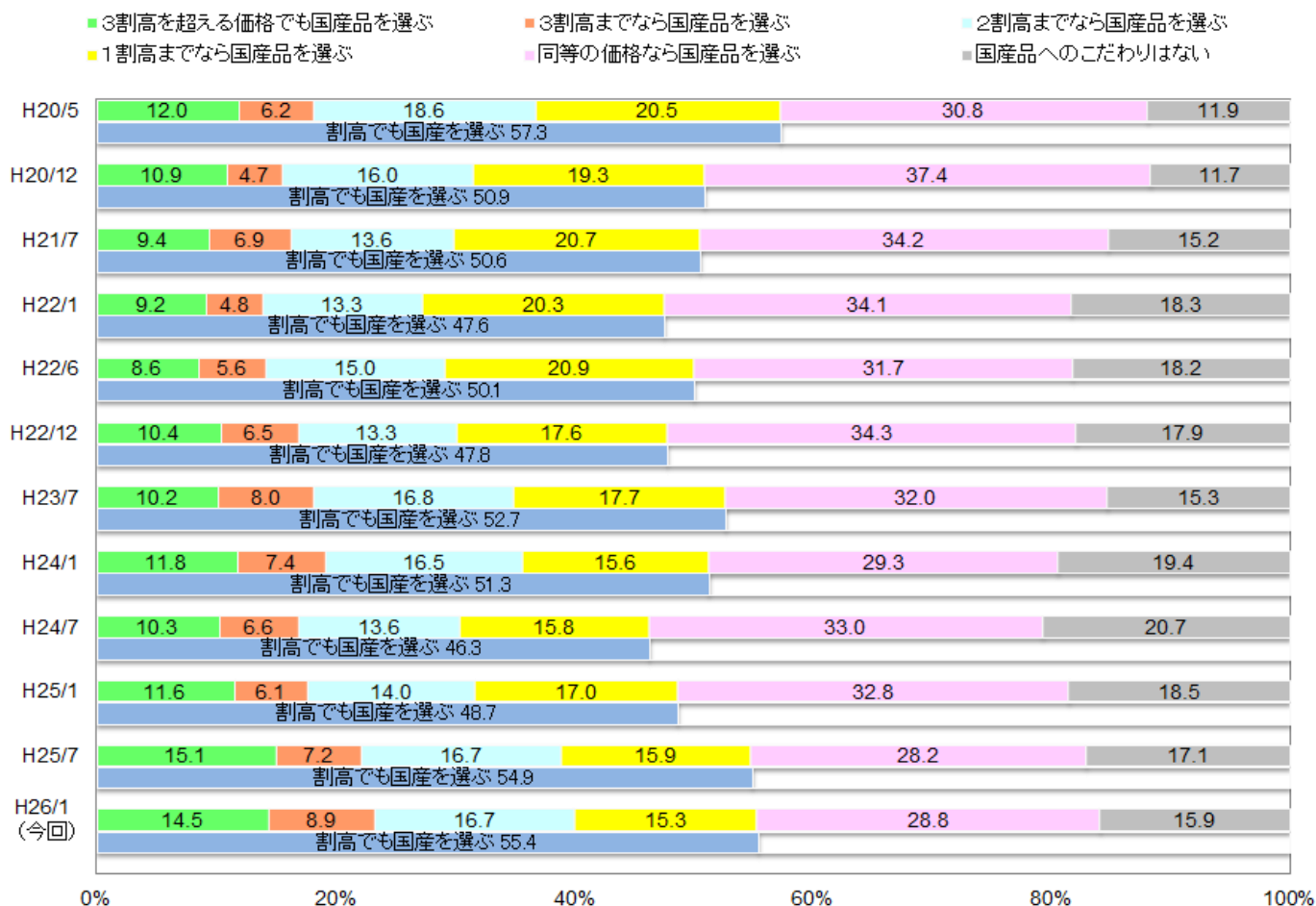
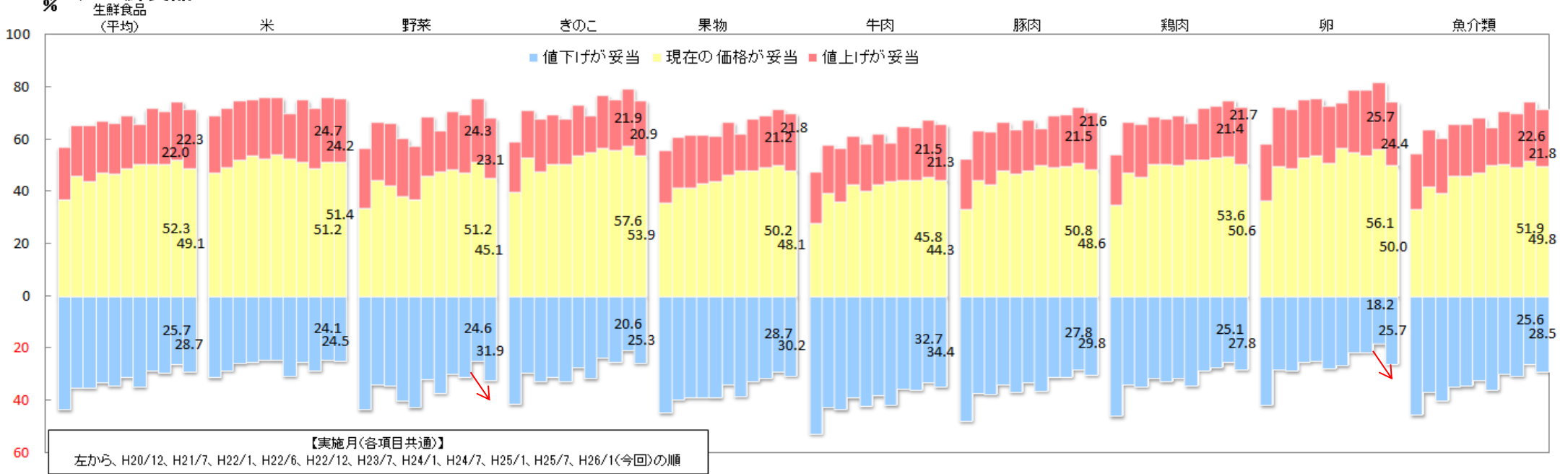


図8 現在の価格と比べて妥当と思う価格水準

(1) 生鮮食品



(2) 加工食品

